

同窓会だより

新潟大学歯学部同窓会

会長 多和田 孝 雄



会長に就任して6年が経過し、今年度から4期目に入りました。6年前に掲げた「会員一人ひとりを大事にすることにより、会員からも大切にされる同窓会づくり」、「会員にメリットのある同窓会づくり」、「強い同窓会づくり」の三つの基本方針は今後も変わることはありません。役員

の優秀な能力と向上心の賜物ともいえる歯学部同窓会の事業展開は、会費納入率の上昇という目に見える形で会員から高い評価を頂いており、事業の恩恵を受けない事がかえって損失であると認識されつつあります。

我々は既存事業の充実と新規事業の開拓を続ける中、部署の統合や新設を始めこれに付帯する規則や規約の策定を図り、強力な同窓会組織を築きました。今年度からはやや手薄であった同窓会の会員サービス事業の広報を重点化して、会員への周知を図りたいと考えております。その為の広報手段そのものの開拓にも積極的に取り組んでおります。

同窓会と会員を直接結ぶ通信手段は既に確立されておりますが、これまで見落とされていた会員同士を繋ぐ横の連絡網の拡充により、更なる情報提供の充実を目指したいと考えております。具体的には支部設立の支援、支部及びクラスメーリングリスト構築の支援、クラス会開催の支援等で事務手間や郵送費の同窓会負担による対応が一部確定しており、その他に付いても柔軟に対応する所存です。

昨年新設した女性会員支援部は今年度から幾つ

かの事業を立ち上げます。また、今年度新たに「準会員・臨床研修医支援部」が4月の同窓会総会で承認されました。この分野はこれまで同窓会サービスの空白地帯となっておりましたが、やっと解消に向けてスタートすることができました。

同窓会の会員総数は平成21年度に2,166名に達し、全国で歯科医療を担っております。また、各地の同窓会支部では口腔生命福祉学科の卒業生も含めた活動の展開が進んでおり、職種は違えど同じ歯学部を卒業した仲間としての連帯意識の更なる醸成を期待するところです。

近年は対応を迫られる新たな事柄が次々と発生し、同窓会事業も多岐に亘って参りましたが、役員と共にこれまで以上に会員重視の同窓会運営を目指す所存です。

2009年度第2回歯学部教授会 同窓会定期協議会議事要旨

渉外理事 飯 田 明 彦

日 時 2010年3月10日(水)

午後7時から8時30分

場 所 歯学部特別会議室II

出席者 大 学：前田学部長、齊藤副病院長

同窓会：多和田（会長）、佐藤・福島・鈴木（一）・鈴木（政）（副会長）、成田（専務理事）、飯田（渉外担当理事）

報告

①歯学部から

前田学部長から報告が行われた。

1. 歯学部の近況について

(1) 人事について

副学部長3名のうち2名に変更あり。

齊藤副病院長が副病院長を退くことに伴い

副学部長に就任。

渉外担当副学部長に魚島教授就任。

小児歯科教授に鹿児島大学准教授の早崎先生
就任（4月1日付）。

歯科侵襲管理学分野教授に准教授の瀬尾先生
昇任（4月1日付）。

(2) 予算・評価ともに順調である

②病院から

齊藤副病院長から以下の報告があった。

1. 病院の近況について

(1) 人事について

病院長に小児科の内山教授就任。

総括副病院長に高橋教授(医科)、興地教授(歯
科)が就任。

(2) 臨床研修医について

定員50名のところ49名採用予定。

本学出身者が多い。

4月6日に登院式を行う。

(3) 歯科診療ユニットの更新について

総合診療部の一部が更新される。教育用とし
て文科省から予算を獲得。

(4) 新外来棟について

平成24年4月に完成、10月に開院する。

それに伴い旧外来の設備はすべて移転とな
る。

(5) 入院病床について

総合周産期母子医療センターの認可に伴い、
従来の810床から825床に増える。

歯科は現状の40床を維持できることとなっ
た。



以上の報告の後、同窓会側から大学側へ質問
が行われた。

1. 歯学部の大規模改修とそれに伴う同窓会室の 設置について

現在、未定な部分が多いが、各分野とも面積
の25%削減を迫られている状況であり、同窓会
室の設置はかなり厳しいものである。

2. 外来等跡地の利用について

G棟は大学本部での使用が決定している。

それ以外は改修費、維持費の問題があり未定
である。

③同窓会から

1. 女性会員支援部の立ち上げについて

女性会員の増加に伴い、女性会員特有の悩み
等について支援を行う部署を立ち上げた。出
産・育児後の復職支援に関して登録研修医制度
の応用や各種講習会の案内などで大学との連携
ができないか議論された。

前田学部長からアンケートの取り方を工夫
し、会員のニーズをきめ細かく汲み上げる必要
があるとのこと意見を頂戴した。

2. 新潟大学創立60周年と連携したホームカミン グデーについて報告がなされた。

3. 支部設立支援と支部メーリングリスト(ML)、 クラスMLの立ち上げに支援について

支部およびクラスと本部のつながりを強化す
るためMLを立ち上げることを提案。

大学の協力を求めた。

ML立ち上げの際、個人的なものが大学の
サーバに存在するのは、会計検査院の監査時に
問題になる可能性があるため、対応策を検討す
ることとなった。

4. 歯学部創立50周年・同窓会45周年に向けて

上記について大学側に協力を要請した。

記念行事に関しては、飲食を伴わない記念式
典までは大学として協力できるが、飲食を伴う
祝賀会に関しては困難である。

今後、記念誌編集事業など大学側と同窓会側
が協力できる部分について話し合うWGを立



ち上げる方向で検討することとなった。

5. その他

卒業式後の謝恩会のときに同窓会から卒業生への表彰を行いたい旨報告した。

謝恩会系の学生や学務係と実務面の協議を行うこととなった。

平成22年度同窓会総会を終えて

副会長 鈴木 政 弘

平成22年度同窓会総会は、平成22年4月24日に開催されました。今年の新潟市は記録的な大雪に見舞われ、4月に入っても寒い日が続きましたが、当日は春らしい陽気に恵まれ、寒さのお陰で長持ちした桜の花が咲き残る中で、例年同様、総会学術講演会（講師：小野和宏教授 新潟大学歯学部歯学科の教育改革とその成果）に引き続き行われました。

開会に先立ち、この1年間でご逝去された8名のご冥福を祈り黙禱を捧げました。

先ず、多和田会長より挨拶があり、1) 女性会員支援等の新規事業が順調に進んでいる事、2) 会費納入率が上昇しており、同窓会活動に対する一定の支持の表れと考えられ、今後もMLの活用等で情報ネットワークを整備して会員への活動内容の周知を図っていききたい事、3) 歯学部大改修に伴い同窓会室の引っ越しが必要な事、4) 歯学部50周年事業にあわせて同窓会45周年事業を行う予定である事、が報告され、今後も元気に活動を行っていきましようとして述べられました。続いて、成田専務理事より、新任役員の説明がありました。

その後、中山総務理事の議長の下で、平成21年度活動報告が各部より説明があり、主だったものとしては、女性会員支援部が新たに立ち上がった事、初めてのクラス代議員会議が開催された事、新潟大学創立60周年記念事業に併せて歯学部ホームカミングデーが実施された事等が報告され、満場一致で承認されました。引き続き平成21年度一般会計報告および特別会計決算報告が佐々木会計

理事より報告され、満場一致で承認されました。

引き続き平成22年度活動計画案について各部より説明がありました。学術部に対し学術セミナー等をビデオ撮影して、それを会員に配布・販売できるような形にしたらという提案がなされ、できる所から対応していきたい旨、また臨床研修医セミナーの公開を予定したいとの回答がなされました。他に、女性会員支援部による女性会員の診療復帰支援等が挙げられ、満場一致で承認されました。続いて、協議に移り、平成22年度予算案について説明があり、慎重審議の結果、原案通り承認されました。その他の協議として、多和田会長より、準会員・臨床研修医支援部を創設し、国家試験・就職支援を行っていききたい旨の説明と、理事には後援会会長として国試合格体験談を聞く会の開催等でご尽力された有松先生（14期）に責任者となっていただき、後に追加人事を行いたい旨の説明があり、承認されました。

最後に、長年にわたり同窓会活動に大変ご尽力され今期をもって退任される佐藤副会長、成田専務理事、神保監事のお三方に感謝状の贈呈が行われ、無事総会は終了となりました。

総会后、駅南の「海鮮屋葱ぼうず」に移して懇親会が行われ、会場の雰囲気は例年と異なったものの、乾杯の後は例年通り同窓生同士の熱いつながりで大いに盛り上がりしました。

平成22年度歯学部同窓会・総会学術講演会

「新潟大学歯学部歯学科の教育改革とその成果」—21世紀を生き抜く歯科医師の育成を目指して—を聴いて

26期生 碓 井 由紀子

平成22年4月24日、新潟大学歯学部口腔生命福祉学科口腔衛生支援学講座小野和宏教授の学術講演会に出席しました。

教育改革を行うようになっていきさつ、新課程





の概要、新課程で学んだ卒業生の目標達成度に関する評価結果をお話しいただきました。

2001年に3月に、21世紀における医学・歯学教育の改善方策について、医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議から、これまでの記憶偏重にかわり教育課題探求・問題解決能力の育成への提言がなされたそうです。

新潟大学歯学部では入学時学生の学力低下、学生臨床教育用患者様の不足などの理由からこの提言に先立ち1998年に教育課程の抜本的な再編を着手し、2000年度から新教育課程が開始されたそうで、常に先を見据えて事に当たる姿勢に頭が下がりました。

新潟大学歯学部の教育目標は、人間性をもつ・自ら問題を解決できる・科学的視野を備えている・超高齢化社会に対応できる・国際社会に対応できる・地域社会に貢献し、その向上に努める、といった歯学部学生に限らず、万人に大事な汎用的能力を身につけることだそうです。そのため、1、2年次で患者様の案内や話し相手になったりする早期臨床教育があったり、3、4年次で医学専門英語や英会話の講義があったり、臨床症例のシナリオを読んでそれにどのように対処するか少人数でのグループ討論を行うPBL（問題基盤型実習）という授業があったりと、学習内容も私が学んだ頃と変化がみられ、卒業して14年も経過したことをあらためて感じました。旧課程で教育を受けた私は、3年生になるまで歯科に関する講義や実習がほとんどなかったため歯学部学生という実感が湧きにくかったのと、3年生以上での講義や実習が分野ごとに独立していて他の講義や実習とどのように関連しているのかよくわからず、総診での実習が始まってからようやく診断と治療の流れがつかめた覚えがあります。そのため、新課程で学んでいる学生さんは恵まれているなあと思いました。

そのような新課程で学んだ卒業生の目標達成度は、卒業生の満足度、歯科医師国家試験合格率などで評価がなされました。卒業生の満足度は統合模型実習、総診といった学生自身が能動的、体験



的、主体的に行うものについて高く、1、2年次の教養の講義が低くなっており、いつの時代も学生の考えることは同じだなと思いました。歯科医師国家試験合格率は2006年度以降の全国平均が70-80%という中で新潟大学は80-90%を維持しており、新課程での教育効果によるもの？と思われました。新課程での教育は概ね成果が上がっていて、これからも優秀な卒業生を輩出するであろうことに頼もしさを感じました。

拝聴した講演内容は自らを省みスタッフを指導する上で非常に有意義でした。講師の小野先生ならびに企画運営していただいた同窓会の先生方に感謝申し上げます。

平成22年度歯学部同窓会学術講演会を拝聴して

23期生 内藤義隆

今年の同窓会学術講演会は、小野和宏教授の「新潟大学歯学部歯学科の教育改革とその成果」—21世紀を生き抜く歯科医師の育成を目指して—という講演でした。

21世紀を生き抜く歯科医師とはどういう事かを知りたい事と、自院の衛生士を指導・教育する際の参考にしたい、また、PBLという新しい教育方法を取り入れているという事を聞いていたので、大変興味深く拝聴させていただきました。

・21世紀の変化する日本社会に対応するため、歯学部では2000年度から新しい教育過程を実践し





ている。

- ・その教育課程を見直す際に、学部教育はどうあるべきかを検討し、基本的認識として「社会情勢からみてもはや6年間では専門性の高い歯科医師を育てる事は不可能であり、むしろ学部教育を歯科医師としての生涯学習の最初の6年間と位置づけて、課題探求、問題解決能力の育成を重視し、その後の大学院での学習を通じて専門性を主体的に向上しうる人材を育成すべきだ。」という理念を持ち、新教育課程を設計。
- ・新教育課程を設計する上では、どういう人材を育成するのか目的目標をたてて、卒業した時にどういう学習成果があればよしとするのか、そういう学習成果を得るためにどういう授業をすべきか、その授業についていける学生はどういう人であるべきか、という所から設計し、作られている。
- ・教育目標を見直し、
http://www.niigata-u.ac.jp/gateways/admissions/10_admissions_010/70_dent.html
に書いている教育目標を設定。
- ・そこから歯学教育の到達目標を策定
http://www.ge.niigata-u.ac.jp/iie/program/program01/program01_27.html
- ・到達目標が得られるように、シラバス（学習計画）を設定。今までの授業では達せない目標に対しては新しい授業を作った。
- ・新教育課程の特徴として、歯学スタディースキル(大学学習法)や、PBL チュートリアルを導入した。

と新しい教育課程についての説明をしていただきました。

実際使用しているPBLのテキストを見せていただきましたが、自分にも今すぐ役立つようなシナリオが設定されていて、解答つきの虎の巻をもらって帰りたいと思うくらいで、今の学生さん

は恵まれているなあと感じました。

新しい教育課程の紹介の後に、この新しい教育課程への評価についての話がありました。新しい教育課程は概ね好評で、また今年の歯科医師国家試験合格率も新卒者は全国一位。国家試験を通るための知識の講義をしなくていいのが、PBLのようなことをやっていると国家試験は大丈夫かという不安もあったが結果として良かった事を示され、母校が新しい理念に基づいた教育を行い、いい成績を出していることを勉強させていただいた。

最後の質疑応答の所で、最近では患者様が少ない事などから、PBLなどの教育方法を取り入れている所もあり、実際は臨床実習そのものが問題基盤型ですべての要因を網羅しており、患者様自身を診せてもらうことが本当は一番いい教育だという話になった。

先ほど今の学生さんは恵まれているなあと書きましたが、実際は患者様こそが一番の勉強で、今日聞いた方法論なども参考にはするものの、当たり前のことですが何より日頃の患者様の診療こそをがんばろうと思いました。

また、最初に多和田会長が本学25周年記念誌に島田学部長が載せた歯学部教育の理念「人類の福祉増大と人類の歴史を創造するに積極的な役割を果たすべく、より進んだ歯科医学を築く研究心のある歯科医師を育てる事を目標とする」という言葉を紹介されました。島田先生と言われて、学部が上がって最初の生理の授業で、「生きているということはどういう事か？」という質問が投げかけられたことを思い出しました。当時はみんな「心臓が動いている事」などと答えていましたが、最近になってその質問は違う意味だったかもしれないと感じています。20年前の授業の質問を今でも憶えているのだから、自分のベースになっている事を感じ、教育は大切に重いものだと再確認しながら聞かせていただきました。

